



公益財団法人 サントリー芸術財団 サントリー美術館 107-8643 東京都港区赤坂 9-7-4 東京ミッドタウンガーデンサイド Tel: 03-3479-8604 Fax: 03-3479-8644

No. sma0058

(2022.8.25)

サントリー美術館
「京都・智積院の名宝」開催

会期：2022年11月30日（水）～2023年1月22日（日）



国宝 楓図 長谷川等伯 六面のうち四面 桃山時代 16世紀

智積院蔵 【全期間展示】

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、2022年11月30日（水）から2023年1月22日（日）まで「京都・智積院の名宝」を開催いたします。

京都・東山に建つ智積院は、弘法大師空海（774～835）から始まる真言宗智山派の総本山で、全国に末寺約3,000を擁します。高野山中興の祖といわれる興教大師覚鑊（かくばん 1095～1143）の法統を受け継ぎ、後に隆盛を極めた紀伊国根来寺山内で室町時代中期に創建されました。天正年間には豊臣秀吉政権の下で一旦衰退しますが、その後、徳川家康の寄進を受け、江戸時代初期には現在の地に再興を遂げました。この地には元々、秀吉の夭折した息子・鶴松（つるまつ すてまる）の菩提を弔うために建てられた祥雲寺があり、長谷川等伯（1539～1610）と息子・久蔵（きゅうぞう 1568～93）が描いた名高い金碧障壁画群も、智積院による手厚い保護を受けて今日まで大切に守り伝えられてきました。

本展は、国宝「楓図」「桜図」など、誰もが知る障壁画群を初めて寺外で同時公開し、桃山時代の絢爛豪華な抒情美にふれる貴重な機会となります。また、国宝

「金剛經」や重要文化財「孔雀明王像」の他、仏堂を莊嚴する佛教美術の貴重な優品や、近代京都画壇を代表する堂本印象（1891～1975）による「婦女喫茶図」に至るまで、智積院が秘蔵する多彩な名宝を一堂に公開します。

《 展示構成 》※展覧会会場では、章と作品の順番が前後する場合があります。

第一章：空海から智積院へ



弘法大師像 一幅

室町時代 文安元年（1444）

【展示期間：11／30～12／26】



京都府指定有形文化財 興教大師像 一幅

鎌倉時代 13世紀

【展示期間：11／30～12／26】

真言宗の宗祖である弘法大師空海は、平安時代9世紀初めに紀伊国（現在の和歌山県）で真言密教の根本道場となる高野山を開創しました。その後、高野山に入山した興教大師覚鑓は、鳥羽上皇（1103～56）の帰依を受けて、荒廃していた高野山を復興し、大治5年（1130）に上皇の勅願寺として大伝法院を開きます。この大伝法院は、のちに同所で研鑓を積んだ頼瑜僧正（1226～1304）によって、覚鑓が高野山麓に開いた円明寺・神宮寺（後の根来寺）へ移され、その法統が智積院にも受け継がれていきました。

本章では、空海や覚鑓の優れた肖像や、智積院中興の祖師たちにまつわる貴重な品々によって、智積院の歴史を概観します。また、「智積院靈寶并袈裟世具目録」（宝永2年（1705）作成 以下、「目録」）などの重要資料を寺外初公開することで、「智積院の名宝」が形成されてきた背景をご紹介します。

【主な出品作品】以下、すべて智積院蔵

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ・弘法大師像 | 一幅 室町時代 文安元年（1444） |
| ・京都府指定有形文化財 興教大師像 | 一幅 鎌倉時代 13世紀 |
| ・根来塗舍利塔 | 一基 江戸時代 17世紀 |
| ・智積院靈寶并袈裟世具目録（上） 専戒筆 | 一帖 江戸時代 宝永2年（1705） |

第二章：桃山絵画の精華 長谷川派の障壁画



国宝 桜図 長谷川久蔵 五面のうち四面 桃山時代 16世紀

【全期間展示】

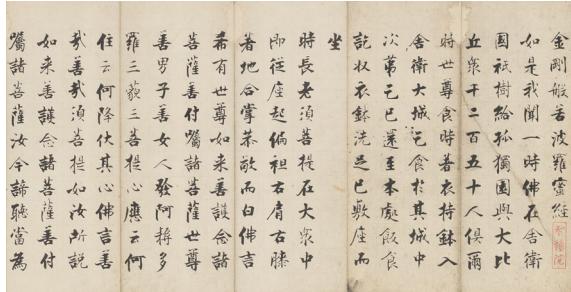
豊臣秀吉は天正19年（1591）に3歳で夭折した息子・鶴松（棄丸）の菩提寺として、京都・東山の地に祥雲寺を建立します。祥雲寺の建築は鶴松の三回忌となる文禄2年（1593）には竣工したと考えられており、長谷川等伯一門が描いた金碧障壁画群も同時期には完成していたと推定されています。智積院は、そのち徳川政権の元で、祥雲寺の伽藍とともに障壁画群を拝領し、火災や盜難などの災厄に見舞われながらも、今日まで大切に守り伝えてきました。「目録」などの資料によれば、これらの障壁画群には、後に仕立て直しや改変が加えられたとの記録がありますが、その画面からは等伯や息子久蔵の雄渾な筆致がうかがわれ、桃山絵画の絢爛豪華な輝きとゆたかな抒情性を今なおたたえています。

本章では、寺外では初の試みとして「楓図」「桜図」「松に秋草図」を一挙同時展示するほか、等伯の傑作とされる「松に黄蜀葵図」と智積院が誇る障壁画群を存分に堪能できる貴重な機会となります。

【主な出品作品】

- ・国宝 楓図 長谷川等伯 六面 桃山時代 16世紀
- ・国宝 桜図 長谷川久蔵 五面 桃山時代 16世紀
- ・国宝 松に秋草図 長谷川等伯 二曲一双 桃山時代 16世紀
- ・国宝 松に黄蜀葵図 長谷川等伯 四面 桃山時代 16世紀
- ・十六羅漢図屏風 長谷川等伯 六曲一双 桃山時代 慶長14年（1609）

第三章：学山智山の仏教美術



国宝 金剛経（部分） 張即之 一帖

南宋時代 宝祐元年（1253）

【全期間展示（場面替あり）】



重要文化財 孔雀明王像 一幅

鎌倉時代 14世紀

【展示期間：12/28～1/22】

空海から脈々と伝わってきた真言教学の正統な学風を伝える智積院は、「学山智山」とも呼ばれ、多くの学僧を輩出してきたことでも知られます。その仏教美術の名宝が、真言宗に関連する品だけでなく、宗派を問わない幅広い分野のものがみられるることは、学問を通して寺内外の学僧と繋がりを持ってきた智積院ならではの歴史を色濃く物語っているといえるでしょう。

その中でも、国宝「金剛経」は、中国・南宋時代の書家、張即之（1186～1266）の代表的な作品です。その特徴である堂々とした筆跡は、後世の日本の書に多大な影響を与えました。また、ともに重要文化財である「孔雀明王像」や「童子経曼荼羅図」は、今なお豊かな彩色を留める鎌倉時代の仏画の優品で、仏教絵画史上においても見逃せない名宝です。

この他にも、本章では、智積院内の仏教儀礼において堂内を荘厳してきた、貴重な仏画や曼荼羅、経典の名品をご紹介します。

【主な出品作品】

- ・国宝 金剛経 張即之 一帖 南宋時代 宝祐元年（1253）
- ・重要文化財 孔雀明王像 一幅 鎌倉時代 14世紀
- ・重要文化財 童子経曼荼羅図 一幅 鎌倉時代 13世紀
- ・両界種子曼荼羅図 二幅 江戸時代 17世紀
- ・积迦如来坐像 一軀 鎌倉時代 13世紀

第四章：東アジアの名品集う寺



重要文化財 濑戸図（滝図） 一幅 宋時代 13世紀

【展示期間：11／30～12／26】

江戸幕府と密接な関係があった智積院には、歴代の能化（住職）たちに加え、在俗の有力者たちからも様々な作品が寄進され、その中には多くの名品が含まれていました。重要文化財「瀬戸図（滝図）」は、「目録」によれば、第十世能化である専戒僧正（1640～1710）が寄付したもので、中国・宋時代の名品です。墨の濃淡で滝水や波濤の表情を描き分ける巧みな画技は必見です。また、第八世信盛僧正（1620～93）が江戸幕府第五代将軍徳川綱吉（1646～1709）から拝領したとみられる「蓮舟観音図」は、狩野派に習った綱吉の優れた画技が発揮されている作品です。さらに、英一蝶による「釜山浦富士図」は、京都所司代第十七代牧野英成（1671～1741）によって寄付されたもので、一蝶が学んだ江戸狩野派の様式を生かした貴重な作例です。本章では、智積院に集った東アジア・中国美術から日本近世絵画の名品まで、多彩な寺宝の競演をご覧いただきます。

【主な出品作品】

- | | | | |
|------------------|------|---------|---------|
| ・重要文化財 瀬戸図（滝図） | 一幅 | 宋時代 | 13世紀 |
| ・重要美術品 薬師三尊八大菩薩像 | 一幅 | 高麗時代 | 14世紀 |
| ・重要美術品 一の谷合戦図屏風 | 六曲一隻 | 室町～桃山時代 | 16世紀 |
| ・蓮舟観音図 徳川綱吉 | 一幅 | 江戸時代 | 17～18世紀 |
| ・釜山浦富士図 英一蝶 | 一幅 | 江戸時代 | 18世紀 |

第五章：智積院の名宝が結んだ美



婦女喫茶図 堂本印象 四面 昭和33年（1958）

【全期間展示】

京都画壇で活躍した土田麦僊（1887～1936）は智積院に縁深い画家です。彼は16歳の時に智積院に入り、画家を志して出奔するものの、同寺の「楓図」「桜図」を学習した成果を、自身の画業の中で存分に発揮しました。智積院には、麦僊が障壁画の装飾性と抒情性を摂取して描いた一幅「朝顔図」が収められています。また、同じく京都画壇の大家である堂本印象が67歳の時に描いた、「婦女喫茶図」や「松桜柳の図」は、智積院宸殿の室中を飾る襖絵です。金地に鮮やかな色彩と近代的な形態構成で描かれた画面には、力強く大胆な木々の表現がみられ、やはり智積院の長谷川派障壁画群の影響を強く想起させます。

本章では、通常非公開である、智積院に縁深い二人の巨匠たちの作品とともに、智積院ゆかりの工芸の名品を一堂に展示し、古くから守られてきた名宝と響きあう、近現代の作品の魅力に迫ります。

【主な出品作品】

- ・婦女喫茶図 堂本印象 四面 昭和33年（1958）
- ・松桜柳の図 堂本印象 八面 昭和33年（1958）
- ・朝顔図 土田麦僊 一幅 昭和9年（1934）
- ・網干片身替蒔絵螺鈿行厨 一具 桃山時代 16世紀
- ・蜜柑菊花形茶入 一口 江戸時代 17世紀

【本展における展覧会関連プログラム】

◎講演会「智積院障壁画と長谷川等伯」

講師：山本英男 氏（嵯峨美術短期大学教授）

日時：2022年12月11日（日）14時～15時30分

料金：700円（別途要入館料）

※当館ウェブサイトよりお申込みください。応募者多数の場合は抽選。

◎御朱印会

總本山智積院のご本尊大日如来の御朱印をお授けします。

日時：2022年12月17日（土）、2023年1月14日（土）

各日10時～17時

ご朱印：700円（別途要入館料）

※事前申込不要

※御朱印帳をご持参ください。なお、会場内で智積院オリジナル御朱印帳もご用意しています。

※会期中、サントリー美術館ショップにて書き置きの御朱印を販売します。（予定）

すべてのプログラムは変更・中止の場合があります。詳細および最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。追加のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

「京都・智積院の名宝」展

▼会期：2022年11月30日（水）～2023年1月22日（日）

※作品保護のため、会期中展示替を行います。

※会期は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼主催：サントリー美術館、総本山智積院、朝日新聞社

▼協賛：三井不動産、三井住友海上火災保険、竹中工務店、

パナソニック ホールディングス、サントリーホールディングス

▼会場：サントリー美術館

東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階
交通機関（東京ミッドタウン〔六本木〕まで）

都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結

東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結

東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

【基本情報】

▼開館時間：10時～18時

※金・土および1月8日（日）は20時まで開館

※いずれも入館は閉館の30分前まで

※開館時間は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼休館日：火曜日（ただし1月17日は18時まで開館）、

12月30日（金）～1月1日（日・祝）

▼入館料：

・当日券：一般1,500円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料

・前売券：一般1,300円、大学・高校生800円

※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱

※前売券の販売は9月14日（水）から11月29日（火）まで

※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ

▼割引：

・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引

・「京都・智積院の名宝」×総本山智積院 相互割引

◎「京都・智積院の名宝」各種チケットを宿坊 智積院会館にて提示で、宿泊料2,000円割引〔要事前予約〕

割引期間：2022年11月30日（水）～2024年1月22日（月）

※智積院公式HPからの予約者限定割引（きょうと魅力、G o T o トラベルなどと併用可）

※割引利用の際、予約後に智積院会館に電話連絡必須

◎智積院拝観券をサントリー美術館受付にて提示で、「京都・智積院の名宝」の当日入館料割引（一般1,500円→1,300円、大学・高校生1,000円→800円）
※割引は本人のみ

※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日 時：12月1日（木）・15日（木）・22日（木）、
1月5日（木）・19日（木）
12時、13時、14時、15時にお点前を実施
(お点前の時間以外は入室不可)

会 場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：各回12名／1日48名

呈茶券：1,000円（別途要入館料）

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、先着順で販売終了、お一人様2枚まで）

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼美術館ウェブサイト：suntory.jp/SMA/

▽プレスからのお問い合わせ：

サントリー美術館〔学芸〕大城〔広報〕吉岡

http://www.suntory.co.jp/sma/info_press/

▽広報画像のお申込み：

「京都・智積院の名宝」展広報事務局（共同ピーアール株式会社内）

〔担当〕安田、伊原

T E L : 03-6264-2059

E - m a i l : chishakuin-ten-pr@kyodo-pr.co.jp

以 上